

甲虫コレクションガイド 8

釧路市立博物館の甲虫コレクション

土屋慶丞

〒 085-0822 北海道釧路市春湖台 1 - 7 釧路市立博物館 (keisuke.tsuchiya@city.kushiro.lg.jp)

Beetle Collection of the Kushiro City Museum

Keisuke TSUCHIYA

はじめに

釧路市立博物館は、北海道東部の自然や歴史をテーマにする総合博物館である。当館の前身にあたる釧路市立郷土博物館が誕生したのは1936年7月14日、釧路市幣舞町の釧路市役所庁舎の2階に、創立者の片岡新助が収集した鳥獣類の剥製やアイヌ民族資料などのコレクションを展示したことに始まる。釧路市立博物館と名称を変え、現在の地に移転開館したのは1983年11月3日のことである。当館では郷土博物館時代以来、地域博物館として北海道東部、特に釧路地方の自然や歴史資料の収集整理分類、調査研究および教育普及活動の拠点として活動を続けている。現在では北海道東部の昆虫標本コレクションとしては最大規模を有するまでになっている。ここでは当館が所蔵する甲虫標本コレクションについて紹介する。

釧路市立博物館甲虫標本コレクションの概要

1. 飯島一雄コレクション

飯島一雄氏（いじまかずお、1928～2016）は1940年代後半から標茶町で林業を営む傍ら、生涯

にわたって北海道東部の昆虫相解明の研究に取り組まれた。1971年から98年にかけては当館嘱託として昆虫標本の収集整理や分類および調査研究にあたっている。標本の地元保存と活用を願う飯島氏の希望により寄贈された標本を、当館では「飯島一雄コレクション」として保管している。一人の研究者が70年近くにわたり北海道東部の昆虫相を解明の研究のために収集、整理、分類することで成立したコレクションである。飯島氏は、研究にあたり少しでも疑問の残る標本は専門家に同定を依頼していたことから、レファレンス標本として極めて利用価値の高いものといえる。飯島氏によって整理分類された道東産昆虫標本は、ドイツ箱287箱に、4,395種、53,686頭が収められており、北海道東部最大の昆虫標本コレクションとして、この地域の昆虫相を知るための基礎資料となっている（表1）。甲虫標本コレクションはそのうち81箱、82科、1,808種、20,959頭で、目別にみると種数、個体数ともコレクション中最大規模である。北海道全域で記録された甲虫類は2,297種（釧路昆虫同好会、1999）であることから全道比78.7%の甲虫をカバーしている。希少種や人気種に偏ることなく北海道東部の甲虫相をほぼ正確に反映したコレクションとなっている。

標本は大型ドイツ箱に保管され、標本箱ごとに目名と標本箱ナンバーを組み合わせた「原標本ナンバー」を付し、収蔵庫の標本筆筒に収納して保管管理されている（図1）。甲虫類の目名は「鞘翅目」で統一している。例えばハムシ科の場合「原標本鞘翅目 No.41-47」の7箱に整理分類されている（図2）。1971年から1998年に寄贈された標本は当館収蔵資料目録に収録されており、甲虫類は昆虫標本目録の(3)および(5)に記載されている（釧路市立博物館、1996、1998）。1999年以降の寄贈標本は釧路市立博物館紀要、釧路市立博物館々報、標茶町郷土館報告などに記載された報文が目録の役割を果たしている（飯島、1999、2002、2003a, b, 2004a, b, 2005、2006a, b, 2009、2010a, b, 2011、2012a, b, c, 2013a, b, c, d, 2014；大平・飯島、2001）。2013年度

表1. 飯島一雄コレクション内訳。

名称	箱	種	頭
蜻蛉目	10	56	449
鱗翅目（チョウ類）	18	96	1,442
鱗翅目（ガ類）	122	1,700	20,368
鞘翅目	81	1,808	20,959
直翅目	3	24	284
革翅目	1	5	82
長翅目	1	1	45
双翅目	15	282	3,150
膜翅目	7	58	1,337
半翅目	17	221	3,964
広翅目・脈翅目	3	40	442
毛翅目	8	104	1,113
飯島一雄の60年史	1		51
合計	287	4,395	53,686

*この他に参考資料として道外産標本378種645頭を保存。



図1. 釧路市立博物館収蔵庫（鞘翅目No.31-60）.



図2. 鞘翅目No.43ハムシ科.

以降、国立科学博物館が運営するサイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) を通して標本情報を順次ウェブ上で公開している。甲虫類ではカミキリムシ科 113 種 1,113 頭の標本情報を公開している（2017 年 4 月現在）。

2. 各種調査資料標本

春採湖共同調査、釧路湿原総合調査、道東海岸線総合調査、阿寒川水系総合調査などで採集された標本を、研究の裏付けとなる証拠資料として保存している（飯島, 1974, 1975, 1984, 1993）。釧路、根室、十勝、網走など道東地方各地で行われた河川水辺の国勢調査陸上昆虫類調査（1991～）で得られた標本も受け入れて保存している。甲虫標本の内訳については、各報告書を参照されるか土屋までお問合せいただきたい。

3. タイプ標本

甲虫類ではハネカクシ科の *Ochtheophilum hokkaidense* T. Ito, 2008 の標茶町産パラタイプ 2 頭が所蔵されている（図 3）。



図3. *Ochtheophilum hokkaidense* のパラタイプ.



図4. 企画展「飯島一雄コレクション展」（2009）.

コレクションの保存と利用

飯島一雄コレクションは、プロ、アマチュアを問わず多くの研究者に活用されることで存在価値がある。今後も当館で保存し、広く研究利用されることが望ましいと考えている。重複標本の交換等によりコレクションのさらなる充実も図っていききたい。未整理標本も多数存在する。ご利用を希望される方は土屋までお問合せいただきたい。

当館では、収蔵庫の確保と収蔵環境の改善が目下最大の課題となっている。収蔵庫はドイツ箱 420 箱分の収容能力があるが、すでに飽和状態にあり、標本筆筒の上に収納できない標本箱を段ボール箱などに入れて積み上げている。このままでは利用しづらいうえ、今後新たな標本寄贈の希望があった場合も受け入れられない状態である。開館から 30 年以上を経て空調設備も劣化していることから、収蔵庫の温湿度制御も年々難しくなっていて、一部の標本にはカビの発生が認められる。応急処置として消毒用エタノールで拭き取ったり収蔵庫外で隔離保存する等の対応をとっているが、廃棄処

分せざるを得ない標本も出てきている。

標本を今後も利用可能な状態で保存していくためには、収蔵庫の大規模な改修・増設が不可欠であるが、実現にあたってはコレクションの積極的な利用が図られていることが大前提となる。研究者の皆様には、当館の収蔵環境改善のためにもコレクションの積極的な利用をお願いしたい。本稿をきっかけに当館の甲虫標本コレクションの存在が全国の研究者に広く知られ、利用されるようになることで地域住民からも高く評価され、保存への理解が深まることを期待している。

最後に

飯島コレクションは、氏が居住されていた標茶町にも一部が寄贈されており、標茶町郷土館が保管している。当館のコレクションが研究利用されることを前提に整理分類されているのに対し、標茶町郷土館のコレクションは展示資料として寄贈されたものである。また、飯島氏が研究者と交わした手紙や別刷り等の文献コレクションも標茶町郷土館に寄贈されている。2017年夏の企画展「釧路の昆虫大集合～飯島一雄コレクション展2017～」(会期：2017年7月1日～8月27日)では、両館のコレクションを初めて一緒に展示公開し、2018年の秋には標茶町郷土館で巡回展示を予定している。甲虫標本コレクションは2009年以来8年ぶりの展示となる(図4)。道東産カミキリムシ科やコガネムシ科の標本は今回が初の展示である。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

謝辞

長年にわたり釧路市立博物館の活動を支え、昆虫標本コレクションを寄贈された飯島一雄氏(故人)、ならびに本連載への投稿をすすめられた倉敷市立自然史博物館の奥島雄一博士に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 飯島一雄, 1974. 春採湖の生物3昆虫. 春採湖共同調査団編, 春採湖. pp. 119-149. 釧路市.
 飯島一雄, 1975. 釧路湿原と周辺の昆虫類. 釧路湿原総合調査団編, 釧路湿原総合調査報告書. pp. 161-214. 釧路市立郷土博物館.
 飯島一雄, 1984. 道東海岸線の昆虫. 釧路市立博物館編, 道東海岸線総合調査報告書. pp. 87-126. 釧路市立博物館.
 飯島一雄, 1993. VI阿寒川水系の昆虫. 阿寒川水系総合調査報告書. pp. 69-90. 釧路市立博物館, 前田一歩園財団, 阿寒町.
 飯島一雄, 1999. 北海道東部の鞘翅目-ゾウムシ類-. 標茶町郷土館報告, (11): 69-103.
 飯島一雄, 2002. 北海道東部の鞘翅目-ジョウカイボン科-. 標茶町郷土館報告, (14): 75-81.
 飯島一雄, 2003a. 北海道東部の鞘翅目-エンマムシ科, エン

- マムシモドキ科-. 標茶町郷土館報告, (15): 93-98.
 飯島一雄, 2003b. 北海道東部の鞘翅目-タマムシ科-. 標茶町郷土館報告, (15): 99-103.
 飯島一雄, 2004a. 北海道東部の鞘翅目追加資料-ゾウムシ類-. 標茶町郷土館報告, (16): 121-125.
 飯島一雄, 2004b. 北海道東部の鞘翅目追加資料-コメツキムシ科-. 標茶町郷土館報告, (16): 127-130.
 飯島一雄, 2005. 北海道東部の鞘翅目-ハムシ科-. 標茶町郷土館報告, (17): 127-152.
 飯島一雄, 2006a. 北海道東部の鞘翅目-オサムシ科, ホソクビゴミムシ科-. 標茶町郷土館報告, (18): 117-164.
 飯島一雄, 2006b. 北海道東部の鞘翅目追加資料(2)-ゾウムシ類-. 標茶町郷土館報告, (18): 165-169.
 飯島一雄, 2009. 北海道東部の鞘翅目-テントウムシ科-. 釧路市立博物館々報, (402): 3-8.
 飯島一雄, 2010a. 北海道東部の鞘翅目-ガムシ科-. 釧路市立博物館々報, (405): 3-6.
 飯島一雄, 2010b. 北海道東部の鞘翅目-ハネカクシ科-. 釧路市立博物館紀要, (33): 1-12.
 飯島一雄, 2011. 北海道東部の鞘翅目-アリモドキ科・ニセクビホソムシ科-. 釧路市立博物館々報, (408): 6.
 飯島一雄, 2012a. 北海道東部の鞘翅目-カミキリムシ科-. 釧路市立博物館紀要, (34): 15-27.
 飯島一雄, 2012b. 北海道東部の鞘翅目-マルハナノミ科-. 釧路市立博物館紀要, (34): 11-13.
 飯島一雄, 2012c. 北海道東部の鞘翅目-ミズスマシ科, ダルマガムシ科, マルドロムシ科, セスジガムシ科, チビドロムシ科, ナガドロムシ科, ドロムシ科-. 標茶町郷土館報告, (24): 67-69.
 飯島一雄, 2013a. 北海道東部鞘翅目-コガシラミズムシ科, ムクゲキノコムシ科, ツヤシデムシ科, タマキノコムシ科, シデムシ科, マルハナノミダマシ科, コブスジコガネ科, センチコガネ科, コガネムシ科. 標茶町郷土館報告, (25): 77-96.
 飯島一雄, 2013b. 北海道東部の鞘翅目追加資料(ハネカクシ科). 標茶町郷土館報告, (25): 99.
 飯島一雄, 2013c. 北海道東部の鞘翅目追加資料(ガムシ科). 標茶町郷土館報告, (25): 101.
 飯島一雄, 2013d. 北海道東部の鞘翅目追加資料(ハネカクシ科). 標茶町郷土館報告, (25): 97-98.
 飯島一雄, 2014. 北海道東部の鞘翅目-マルトゲムシ科, ヒゲトコメツキダマシ科, コメツキダマシ科, ペニボタル科, ホタル科, マキムシモドキ科, ヒメトゲムシ科, カツオブシムシ科, シバンムシ科, コクヌスト科, カッコウムシ科, ジョウカイモドキ科, ツツシンクイ科, ヒメキノコムシ科, ヒゲボソケシキスイ科, ケシキスイ科, ネスイムシ科, ヒメハナムシ科, ヒメキノコムシ科, チビヒラタムシ科, ホソヒラタムシ科, キスイムシ科, キスイモドキ科, オオキスイムシ科, オオキノコムシ科, カクホソカタムシ科, テントウダマシ科, ヒメマキムシ科, ホソカタムシ科, デバヒラタムシ科, コキノコムシ科, ツツキノコムシ科, キノコムシダマシ科, クビナガムシ科, ナガクチキムシ科-. 標茶町郷土館報告, (26): 59-88.
 大平 仁夫・飯島一雄, 2001. 北海道産オオクロヒラタコメツキについて. 標茶町郷土館報告, (13): 47-51.
 釧路昆虫同好会, 1999. 道東の昆虫. 釧路市, 290 pp.
 釧路市立博物館, 1996. 昆虫標本目録(3). 釧路市立博物館収蔵資料目録(XVI), 53 pp.
 釧路市立博物館, 1998. 昆虫標本目録(5). 釧路市立博物館収蔵資料目録(XVII), 53 pp.

(2017年5月7日受領, 2017年6月17日受理)